

🌿 創立記念日 聖句の紹介（ヨハネ 15:5）

来る11月1日、私たちは、117回目の創立記念日を迎えます。
この聖句は、毎年、創立記念を祝うときに読まれてきた、大切な言葉です。
今年も、あらためてこの聖句を味わってみたいと思います。
「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」
この言葉を、私たちの学校に重ねてイメージしてみましょう。

「聖霊学園高校は一本のぶどうの木。私たちはその枝である。」
どんな幹が見えますか？ どんな枝が、どこへ向かって伸びていますか？
そして、その枝にはどんな実が実っているのでしょうか。

この「聖霊の木」は、117年前、創始者、聖アーノルド・ヤンセンによって派遣され、海を
越えてやってきた5人の若いシスターたちによって植えられました。
その根には、神様への信頼と、教育への熱い使命が流れています。
やがてその枝は、秋田の地いっぱいに広がり、
多くの卒業生、先生方、地域の方々の思いに支えられながら、
今も新しい若い枝を伸ばし続けています。
みなさん一人ひとりが、その枝の一本です。

創立世代の人々が描いた夢は、
「神と人とのつながりの中で、真の幸福を生きる人」、
「世界の舞台で光を放つ女性」を育てることでした。

今、聖霊学園高校は、
海を越え、さまざまな国や地域の人々とも枝を結び、
世界と響き合う一本の木として成長しています。
みなさんが日々の学びや奉仕を通して、思いやりの心を育て、
違う文化や考え方を理解しようとする時、そして違いを超えて人とつながる時、
その実は確かに実っています。
この木がこれからも豊かに実を結ぶために、
私たちが忘れてはならないこと――
それは「互いにつながり合うこと」、そして「根を大切にすること」です。
創立以来、学校を育ててきた多くの人々の志と祈り、
見えないところで支えてくださる方々の思いが、
今もこの木の根に深く息づいています。

その歩みに感謝しながら、今年の創立記念日は、
「これからどんな実を結びたいか」を思い描く日としましょう。

枝の一本である私たち一人ひとりが、新しい時代の風を受けて、
さらに豊かな実りを育てていけますように。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。
人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、
その人は豊かに実を結ぶ。」ヨハネによる福音書 15 章 15 節